

6:33 ミデヤン人や、アマレク人や、東の人々がみな連合して、ヨルダン川を渡り、イズレエルの谷に陣を敷いた。

6:34 主の霊がギデオンをおおったので、彼が角笛を吹き鳴らすと、アビエゼル人が集まって来て、彼に従った。

6:35 ギデオンはマナセの全域に使者を遣わした

彼はまた、アシェル、ゼブルン、そしてナフタリに使者を遣わしたので、彼らは合流して上って来た。

6:36 ギデオンは神に申し上げた。「もしあなたが仰せられたように、私の手でイスラエルを救おうとされるなら、

6:37 今、私は打ち場に刈り取った一頭分の羊の毛を置きます。もしその羊の毛の上にだけ露が降りていて、土全体がかわいていたら、あなたがおことばのとおり私の手でイスラエルを救われることが、私にはわかりません。」

6:38 すると、そのようになった。ギデオンが翌日、朝早く、その羊の毛を押しつけて、その羊の毛から露を絞ると、鉢いっぱいになるほど水が出た。

6:39 ギデオンは神に言った。「私に向かって御怒りを燃やさないでください。私にもう一回言わせてください。どうぞ、この羊の毛でもう一回だけ試みさせてください。今度はこの羊の毛だけがかわいていて、土全体には露が降りるようにしてください。」

6:40 それで、神はその夜、そのようにされた。すなわち、その羊の毛の上だけがかわいていて、土全体には露が降りていた。

敵は結集して戦いの準備が整いましたが、ギデオンは大胆に人々を集めました。もう後戻りをすることはできません。酒ぶねの中に身を隠していたような者が、主に召しだされて偶像を撤廃してきよめられ、後戻りできない状態で心を決めたのです。どんなに信仰の勇者でも始めから「自分にはできる。」と思っていた人はいません。主のためなら、また主の御心が前進しているのなら、もうそれで行くという決心をしましょう。

またギデオンは慎重な人でもありました。前進しているからこそ、主の御心を確かめたくなるものです。不安や迷いがあるなら、正直に自分の内面を見つめて、主からの確信をもらいましょう。

ミニストリーを担ってわかることは、それぞれの段階において、新たな不安が起きるということです。ギデオンのように、人でへなく主に聞きましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

